

将来像検討資料

1. 将来像（案）3案

基本構想における将来像は、市民と市が共有すべき未来のビジョンであり、その実現に向けた幅広い協働を促すために掲げられるものです。

これまで、市民意識調査、市民ワークショップをはじめ、市民参画を通じて、様々な声を聞き、市の強み・弱みから導き出したキーワードや第5次総合計画の総括から想定される課題から、将来像を構成する要素を整理してきました。

さらに、審議会委員の意見等を踏まえ、将来像（案）を次のとおり提示します。

(1) だれもが誇れる 暮らしつづけたいまち 朝霞

(2) 私たちが育む 心地よく暮らせるまち 朝霞

(3) だれもが誇れる つながりのあるまち 朝霞

(参考) 私が 暮らしつづけたいまち 朝霞（第5次総合計画）

2. 将来像（案）の説明

(1) だれもが誇れる 暮らしつづけたいまち 朝霞

【説明】

朝霞市は、都心に近く、交通の利便性に優れると同時に、豊かな自然と景観があり、都会的な生活と穏やかな日常を両立することができるまちである。

第5次総合計画の将来像としても掲げた『暮らしつづけたいまち』をさらに洗練し、市民の愛着や誇りに思う気持ちが育ち、魅力的で住みやすいまちとしていく。

だれもが	：主体性ある“私”以外の“だれもが”が含まれる
誇る	：魅力の創造・活用等を背景として知る、好きになる、誇る
暮らしつづけたいまち	：朝霞というまちを愛し、「朝霞で暮らしつづけたいまち」、「朝霞で暮らしてみたい」と思えるような、魅力的で住みやすいまちが想起される
まち	：ソフト・ハードを含めた朝霞市全体、各地域を想起
朝霞	：やや硬質なイメージだが、固有名称として朝霞の独自性が伝わる

(2) 私たちが育む 心地よく暮らせるまち 朝霞

【説明】

武蔵野の自然が残され、快適な都市基盤も整備された環境の中で、市民一人ひとりが思い描く「心地よい暮らし」を追求できるまちを、市民・行政等多様なつながりの中で守り、育てていく。

私たち	：市民と市が創る、という主体性が明確
育む	：あるものを生かす
心地よく暮らせる	：生活環境、自然環境、都市環境のほか、人と人との関係性も想起される
まち	：ソフト・ハードを含めた朝霞市全体、各地域を想起
朝霞	：やや硬質なイメージだが、固有名称として朝霞の独自性が伝わる

(3) だれもが誇れる つながりのあるまち 朝霞

【説明】

地域に対する市民の愛着や誇りに思う気持ちが育ち、人と人のつながりによりコミュニティの希薄化への懸念も解消し、また、DX等の技術によって生活利便性も高まったまちとしていく。

だれもが	：主体性ある“私”以外の“だれもが”が含まれる
誇る	：魅力の創造・活用等を背景として知る、好きになる、誇る
つながりのある	：コミュニティやネットワークが想起される
まち	：ソフト・ハードを含めた朝霞市全体、各地域を想起
朝霞	：やや硬質なイメージだが、固有名称として朝霞の独自性が伝わる